

JWFファンド2020 完了プロジェクト概要

I. Kake村の湧水保護設備の建設(カメルーン)

- 実施団体: Bridgers Association Cameroon (#047)
- 費用: 1,205ドル (JWFファンド1,000ドル、団体205ドル)
- 受益者数: 1,000人
- 実施地の水問題:

対象のKake村には水道がなく、女性や子どもたちは村から900M離れたため池まで40分以上かけて水を汲みに行っていた。子どもたちは水汲みのために学校に通うことができず、人々は汚れた水に起因する病気の治療にお金を費やしていた。この水源は水汲み場として整備されていないため、周辺は衛生的な環境ではなく、動物もこの池の水を飲んでおり、汚染されていた。



住民が水源として利用していたため池



完成した湧水保護設備

- 主な活動内容: 湧水保護設備の建設と周辺の整備、プロジェクト説明会、新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 対策に関する啓発活動、設備の使用と安全な水に関する啓発活動、維持管理委員会と基金管理委員会の設立、設備の維持管理と資金管理に関するトレーニング、水質検査の実施等
- 持続性: 建設した湧水保護設備の維持管理は維持管理委員会が行い、修理等が必要な際は基金管理委員会に報告し対処する。

これらの活動により、飲み水の水源が改善され、住民の生活環境の向上が期待された。

JWFファンド2020 フォローアップ結果

1. Kake村の湧水保護設備の建設 (カメルーン)

【現状】

• 湧水保護設備:

計画通り機能している。乾季を含み、一年を通して清浄で安全な水を供給していた。Kake村民だけでなく近隣から水汲みに来るようになり、2000人以上の間接受益者がいると推測。地域共同体の水需要には、良く応じている。しかし、金属カバーと集水パイプが壊され、鍵がかからなかった。視察時に、水汲みをしていた受益者は子供が多かった。子どもたちでも、施設は丁寧に扱っていた。施設を壊したのは、近隣村落から夜間に水汲みに来た人々とのことだった。

• 維持管理委員会:

施設の維持管理と受益者への指導はよくされていた。しかし、近隣村落からの夜間給水で複数回、被害を受けてきたので、委員会として問題を見越して将来そうした事件を減らせないか対策を講じているところだった。

• 基金管理委員会:

計画終了時の仕事熱心だった委員長は急死したが滞りなく業務を行っていた。壊された金属カバー、集水パイプ、鍵は既に何回も委員会が資金を集めて交換したとのこと。

【変化】

• 衛生活動:

従来Kake村では衛生習慣が重要視されてこなかったが、清浄な水が手に入ることによって手洗い・歯磨きや定期的な入浴習慣がもたらされた。食品衛生の意識も向上して、今や子供でも果物を食べる前には洗う習慣がついた。

• 水系感染症の減少:

施設の導入以来、Kake村と近隣村落の水系感染症は約6割減ったと報告された。この計画で地域住民は衛生習慣維持の重要性を学び、いっそう水系感染症が減少した。

【その他】

最近Kakeの近隣村落と実施団体で会合があり、Kake村に行ったような事業ができないかと要請された。東部カメルーンにおいて、こうした数多くの要望に実施団体がそれぞれ資金源を探すのは難しい。JWFF2020の成果は素晴らしかった、可能ならば増額してほしいとのことだった。



近隣の村から水汲みに来る家族



維持管理に貢献したと説明する若者



楽しそうに水を汲む子どもたち

JWFファンド2020 フォローアップ結果

1. Kake村の湧水保護設備の建設 (カメルーン)

現場からの声 (抜粋)



Alima Appolinaireさん (77歳)

村人たちの衛生習慣には明らかに良い変化がありました。清浄で安全な水の供給と維持機構があることで、下痢や腸チフスなど水系感染症がはっきり減少しました。汚れた水による皮膚疾患も減り、村人たちの健康状態はとても良くなりましたといえます。この変化は私の村だけではありません。同じ水源に頼っている近隣の村落にも健康衛生面で顕著なインパクトを与えました。近隣の村人たちとも清浄な水を手に入れるために遠くまで出かけなくて済むので、良い関係になりました。全体的にみると、今回の事業では私たちだけでなく近所に住んでいる人たちにも良い変化をもたらしました。



Tchalla Marcelさん (32歳)

基金委員会は、委員長、副委員長、会計、監査役と規律委員の5人で構成されています。集金や設備の維持に問題もあります。前委員長の死は彼女が委員会内の動機づけと推進力だったので大きな挫折で、代わりに指導する人を探すのに苦労しました。受益者のなかには家計に苦しんで月極め費用を払えないところもありますし、夜の水汲みで施設のカバーと鍵を繰り返し壊される問題もありますが、なんとか乗り越えようとしています。受益者からは色々な声が上がっています。特に隣村が多いのですが、前向きですよ。人々は清浄な水が手に入ることを感謝していて、水系感染症が減ったと分かっています。「水を飲み食いに使えるようになったよ」「うちの子は清浄な水へのアクセスができ、病院で腸チフスの薬を買うお金がいらなくなった」「よそから水汲みにくる人の数をみると、長い間待っていた最高のものが手に入ったとわかるよ」といったコメントを良く聞きます。



Essana Mbita Paulineさん (37歳)

清浄で安全な飲み水へのアクセスができたことで安心しており、感謝しています。この事業の完成以前は、汚れて遠い水源まで水を汲みに行かなくてはなりませんでした。特に私たち女性や子供にとっては、とても時間の大きな浪費でかつ危険でした。以前は手洗いをあまり気にしませんでした。今では自分で実行するだけでなく、子どもたちにいつどこで手を洗うか教えています。そして、水汲みをする容器をきれいに洗って蓋をするようになりました。うちの子は健康になって、以前ほど病気にかからなくなりました。私も水汲みのために時間をとられなくなったので色々なことができるようになりました。私の家族は、この事業のおかげで生きるのがより楽になり、より健康になりました。